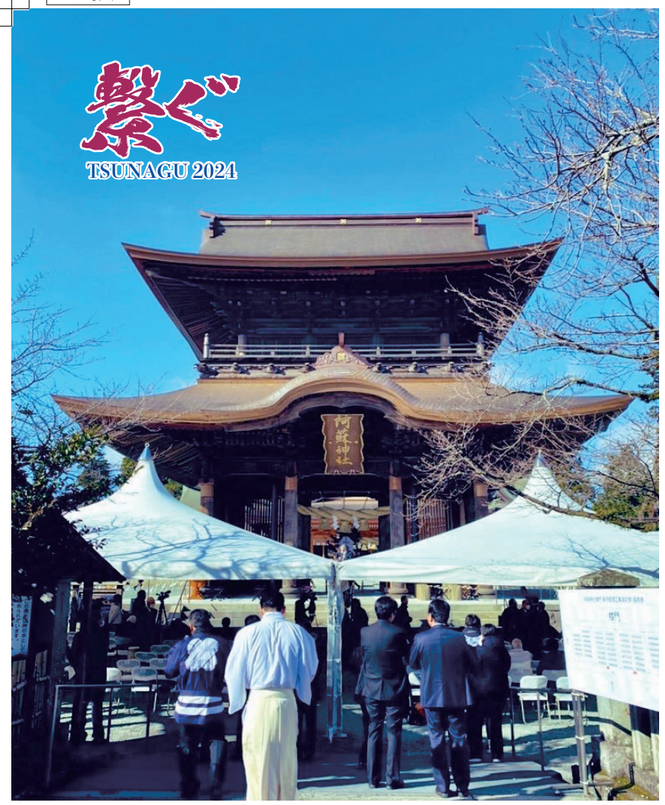
4校

「楼門」在りし日の姿に

「竣功祭（しゅんこうさい）」で復旧完了祝う

阿蘇神社



▲神社全体の復旧費は約25億円。楼門は23年3月に主要工事が終了し、7月には設置した「素屋根」を解体、完全復活の歩みを進めてきた

▲竣功祭には県内の神社、行政、工事関係者など約260人が参列、阿蘇のシンボル復活を祝った

▲「皆さまのよりどころになる神社として誠心誠意奉仕していく」とあいさつする同神社の阿蘇惟邑（これくに）宮司

▲復旧完了に併せて「阿蘇復興ちょうちん祭」も開催。左奥に見えるのが楼門

▲神職らに続き楼門の「くぐり初め」を行う来賓や関係者ら。地震から7年8カ月ぶりに通る楼門を見上げ、感嘆の声を上げる姿が見られた

〝あの日〟から約7年8カ月、止まった時間が再び動き出した。阿蘇神社（阿蘇市一の宮町）は12月7日、2016年の熊本地震で全壊した「楼門」や、被害を受けたそのほか主要な社殿の災害復旧が完了したことを神前に奉告する「竣功祭（しゅんこうさい）」を行った。

同神社は地震で国の重要文化財6棟が損壊し、うち5棟がすでに復旧工事を完了。1850（嘉永8）年に建立された楼門は解体や部材の修復を経て、19年8月から組み立て工事を開始。21年2月の立柱祭、22年4月の上棟祭を経て、完全復活に辿り着いた。

当日は県内の神社、行政、工事関係者など約260人が参列。工事の完了を「祭神」に報告する神事や、同神社の農耕行事で歌われる祝い唄の奉納を経て、神職らによる楼門の「くぐり初め」が行われた。その後、来賓や関係者、地元住民が続き、7年8カ月ぶりに在りし日の姿を取り戻した楼門に感嘆の声が上がった。また、復旧完了に併せて「阿蘇復興ちょうちん祭」も開催。阿蘇の「シンボル」の復活に地元は大いに湧いた。

（編集部・堀悟史）

阿蘇神社が12月7日に開いた「竣功祭（しゅんこうさい）」。熊本地震で全壊した楼門や被害を受けたそのほか主要な社殿の災害復旧が完了したことを神前に奉告した

グラビア_阿蘇神社.indd すべてのページ　2023/12/21 14:36